

座談会 「演劇・時空の旅」

#7 『ゴドーを待ちながら』

× 中井美穂（フリーアナウンサー）

× 日高啓介（FUKAI PRODUCE 羽衣）

× 寺田剛史（飛ぶ劇場）

× 永山智行（宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター、劇団こふく劇場）

みんなでおしゃべりしよう！
“わからない”ことだって楽しんでじゃう
演劇の深い魅力

質の高い舞台を生み出し続ける「演劇・時空の旅」シリーズ。7回目はノーベル文学賞受賞者でもあるサミュエル・ベケットの代表作『ゴドーを待ちながら』です。宮崎出身で現在は東京のFUKAI PRODUCE 羽衣に所属する日高啓介さんが参戦する今回。日高さんのご縁から、熱心な羽衣ファンにして大の演劇愛好家を自認するアナウンサー・中井美穂さんを迎えての座談会が実現しました。演劇や劇場の話題を軸に、おしゃべりは様々に枝葉を広げていきます。

人と作品の出会い・いろいろ

——日高さんは宮崎ご出身ですが、永山演出作品と出会ったのは東京だそうですね。

日高 はい、永山さんが作・演出されたみやざき◎まあるい劇場の『青空』（2010）の東京公演があって、それを劇団の制作から強く勧められたのが最初です。こふく劇場の方たちと障害者の方との混成チームによる作品で、後ろにひっくり返るくらい衝撃を受けました。作為や政治的な意図とは無縁の、純粋なエネルギーに満ちた美しい作品で、あのときのショックは羽衣の劇作・演出・音楽を手がける糸井幸之介の作品を最初に観たときと同じくらい強烈だった。

——宮崎にいらした頃は演劇との接点はなかったのですか？

日高 演劇はやっていなかったし、むしろ嫌いだったかな。知識もないのに、演劇に対する偏見があったんでしょう。東京で芝居を始めてからは逆に、宮崎だけでなく九州のほうはなるべく見ないようにしていました。何かとツライ東京暮らしの中で、九州に良い場があったら帰りたいなっちゃうじゃないですか（笑）。でも「青空」に続けてすぐ、こふく劇場の「水をめぐる」（2010）をこまばアゴラ劇場（東京）で観てからは、とにかく永山さんの作品に出たくて猛烈にアプローチし始めました。実家に帰ることに稽古場に押しかけたり、羽衣のDVDを渡したり。

永山 うちの稽古場でご飯も食べて行ったよね（笑）。

日高 はい、初対面の劇団員さんに混じって。

——中井さんの、羽衣作品との出会いはいつですか？

日高 うんうん！

中井 なるほど！

永山 ベケットの別の本にも「知覚されることが存在すること」みたいな記述があるんですよ。

日高 身近な人が亡くなると、その人の「存在」について色々考えるじゃないですか。僕には「靈魂」と呼ばれるものは、「人の記憶」が形を変えたもののように思えるんですが、「ゴドー」にはそういうことが詰まっている。劇中には不在のゴドーが段々存在しているかのように思えてくるのは、場が進むことに僕らの中にゴドーがかたちづくられていくからですね？

永山 そういう「居ないけど居る」という状態感覚は日本人に親しみ深いものですよ。自然現象に人格を重ねたり、見えないものを感じたりすることが日本では身近だし、「物語」に対する原体験でもあるはず。その点でも、自然がたっぷりある宮崎は「ゴドー」のような作品に向き合うのに良い環境だと思っています。

日高 念願叶った出演ですから、僕は何もかもが楽しみです。既に、少し寺田さんを愛し始めていますし（笑）。

寺田 それ、僕も感じてました！（笑）。

中井 この作品が、こんなに長い間世界中で上演され続けているのは「愛」がベースにあるからですね、きっと。宮崎でこのあと愛を育む稽古が始まるんだ（笑）。

永山 1月17日がキャンペーン。二人には存分に愛を育んでもらいます（笑）。

中井 私も2月に宮崎で観劇できるよう、仕事を調整しておこなきゃですね！



ゴドーを待ちながら

EN ATTENDANT GODOT

「演劇・時空の旅」シリーズ#7 1953年/フランス

2014～2015 シーズンテーマ [演劇・ダンス] 「わからない、はおもしろい」

○作：サミュエル・ベケット ○訳：安堂信也 高橋康也（白水社刊） ○演出：永山智行（宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター）

出演：寺田剛史（飛ぶ劇場/北九州） 日高啓介（FUKAIPRODUCE 羽衣/東京 ※宮崎出身）

濱砂崇浩（劇団こぶく劇場/宮崎） 山下品（グレコローマンスタイル/福岡）

上杉一馬（劇団「夢」/宮崎）* 小田翔吾（宮崎公立大学演劇部/宮崎）* （*：Wキャスト）

【宮崎公演】

公演日時：2015年2月13日(金) 19:00

14日(土) 18:00

15日(日) 14:00★

★：終演後に演出家と出演者によるアフタートークあり

会場：メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）

イベントホール

〒880-8557 宮崎県宮崎市船塚3丁目210番地

【三股公演】

公演日時：2015年2月19日(木) 19:00

会場：三股町立文化会館

〒889-1901 宮崎県北諸県郡三股町大字樺山3404-2

チケット料金： 一般 3,100円 学割（小～大学生） 1,500円 ペア券（一般2枚）5,100円※前売りのみ

お問合せ：公益財団法人宮崎県立芸術劇場 TEL：0985-28-3208 <http://www.miyazaki-ac.jp>

主催：公益財団法人宮崎県立芸術劇場 共催（三股公演）：三股町・三股町教育委員会